

下記の表題は、福島県で百姓をしている知り合いがつづっているブログ(インターネット)からのものです。本人の書き込みと、私の冷やかしなどを転載してみます。(紙面の関係でわかりにくいのはご容赦を)

「いまだきの義民の呟き」から

[Entpy 義民]

今年は、例年よりも早く3月23日に「塩水選」をし、23日間「浸種」した。「催芽」を行わずに種を蒔く。種を浸す水の温度が10℃を超えないように毎日水を変える配慮をしたがなかなか難しい。温度が上がると芽が動き出す。発芽が揃わないという事態も想定される。しかし、電熱による加温をしないで種の持つ力で必ず芽は出る。

地球を冷やすための小さな、私にとって大きな転換になる種まきだ。

[Entpy 義民]

稲の芽が出ないのに業を煮やし、ハウスにストーブが入れられていた。「イツ田植えできつかわがね。」と母。地球にやさしい農業は、私にとって厳しい。

[Comment すずき産地]

「電熱に頼らない」ことと「催芽をしない」ことは別な話では。うちでは、お風呂の残り湯に漬けて催芽をして、育苗器(電熱)には入れないで平置きしています。ハウス内に並べた上から、発泡ポリのシートを2枚重ねで覆っておきます。1枚のときより数日、発芽揃いが早まります。

[Entpy 義民]

「たいへんなことになっているか

ら、早く戻ってきて」と妻から電話。家に戻ると父が育苗培土と種籾を手配。「苗をまき直す。こんな苗じゃ、恥ずかしくて植えらん」

久方ぶりにカアアアと血が上った。「……」「……」(文章にできない)売り言葉に買い言葉が続く。「絶対まき直しはしない」と言い捨てて二階にあがる。妻が追いかけてきて「説得してこいつで言うけど」「放っておけ」

一応まき直しは阻止。昼頃になって、苗はますます青々としてきた。父「これでうまくいったら、謝る」私「謝るより、黙ってて」

[Comment すずき産地]

うちの父は9年前に死んでるけど、ジャガイモにアブラムシがついたからと、父がエストックスとかいう殺虫剤を買ってきたことを思い出しました。それを散布するしないで大げんかをして、まだ赤ん坊だった長女が泣き出したんだっけなあ。

あるときは、イネの育ちが悪いからと父が農協に化成肥料を注文してたらしく、でも、それが配達されたときに私が受領を断って、代わりに鶏のエサを注文しちゃって、結局、納屋に積み上がっていたのは飼料トウモロコシの袋だったなんてこともありました。

農協出荷をやめ(減反ペナルティで出荷枠がなくなったし)、無農薬



里のギャラリー⑦

栽培のコメや地たまごの直売という経営のなかで、親父の居場所がなくなり、それが結果的に死期を早めたのではないかと反省しています。

もうケンカをすれば倅のほうが強いに決まっているんだから、どう「負ける」か、もしくは居場所を残してやって勝つ方法を考えるべきなんだろう。と、今なら、もしくは他人事なら気がつきます。

[Comment だいず]

記事を読んで、20年ほど前のことを鮮やかに思い出しました。

義父と義兄が、トマト畑のことで口論をしていました。農業以外の仕事で多忙だった兄に対して、父が「あんなに草だらけにして、近所手前に恥ずかしい」と言うのを聞きながら、新前の嫁だった私は、サラリーマンはどんな仕事なのか、その仕事ぶりなど近所には見えないけど、農業は全部見られるのか…父の世代はその近所の目を意識して田んぼや畑をつくる部分が大いんだ…と思ったものです。何かの時に「うちの田んぼだけ…」という台詞も、よく聞いていました。

すずき産地さんも、義民さんも、義兄も、農家を引き継ぐのは、親子ともに前向きな葛藤があるのですね。